

## 第2回目（1993年9月25日放送）

### 【いろはがるた】

「律義者の子たくさん」: A conscientious man has many children.

### 【話の内容】

日本の国旗、日の丸の話と明治33年(1900年)4月に開催された日本流の茶会の話をもう一度してほしいという、リスナーからの電話があった。リスナーあつての放送局であるため、今回はリクエストにこたえる。

日章旗、日の丸は日輪・太陽を模ったものである。徳川幕府の終わり頃、尊王攘夷の機運が高まる混乱の中、各藩が軍艦を作って、思い思いの旗を揚げたため、対外国との関係で色々な問題が起こった。これに心を痛めた薩摩藩主島津斉彬は、日の丸を作って幕府に献上した。安政元年7月11日より、大きな船にはこの旗が日本の国旗として使われるようになった。安政3年1月27日、正式に日の丸が国旗となることが布告された。したがって、日の丸は戦争のためではなく、日本を統一するための平和の象徴となったのである。

明治33年(1900年)4月の新聞を見ると、日本風の茶会が行われたことがわかる。ホノルルのキロハナ美術協会で開催された茶会では、参加者は日本人であるかどうかにかかわらず、全員和服であった。白人の婦人によるバイオリンとピアノの演奏のあとに、大和歌の合唱があった。ここで歌われた大和歌とは、君が代のことである。今西兼二(横浜正金銀行ホノルル支店長)が、「日本婦人とその家庭」という題でスピーチをした後、妻のいと子が、茶の湯の方式について英語でスピーチをした。琴や三味線の演奏があったり、お茶を飲んだりして、和気あいあいとした雰囲気では終わった。

この茶会でスピーチをした、今西兼二氏の妻今西いと子は元年者小澤金太郎の子孫であることがわかった。小澤は東京から明治元年(1868年)にハワイに渡り、各種の事業を手掛けた。明治25年(1892年)、ホノルルのフォート街に金太郎長屋と呼ばれる簡易長屋を5、6軒建てた。この金太郎の次男健三郎はハワイ生まれで明治43年(1910年)にハワイ県の弁護士資格を取るも、市民権は取れなかった。長男洋太郎は、日系で初めてハワイ島警察の巡査となった。彼は酒が好きであったため、「酔い太郎」と呼ばれた。よく知られている阿部三次は、洋太郎に次いで2人目の巡査であった。金太郎の娘の小澤いと子は高校を出た後、幼稚園の先生となり、横浜正金銀行の支店長の今西と結婚したという<sup>1</sup>。

---

<sup>1</sup> 1868年に夫である小澤金太郎と一緒にハワイへ渡ったトメ(Tome; トミとも記載あり)は、当時妊娠8か月でありハワイで長男洋太郎を産んだとされており、これが初の日

また、堀アイ子という女性が、ハワイ日系人社会の中で初めてピアノ教室を 1910 年に自宅で開いた。彼女はヌアヌ日本人教会の堀貞一牧師の妻であった。このような「元祖」が続いて現在がある。

**【曲】**

「君が代」

**【サブジェクトタグ】**

文化 大和歌 元年者

---

系 2 世の誕生とされている (Gary Okihiro “The Japanese in America”, Brian Niiya 編集, *Japanese American History: An A-To-Z Reference from 1868 to the Present*, pp.2-3 参照)。  
洋太郎は、初めて日系の巡査となった人物だともされている。長女のいと子は 12 歳でハワイ王国政府の日本語通訳官として働いたとされる (Gary Okihiro “The Japanese in America”, Brian Niiya 編集, *Japanese American History: An A-To-Z Reference from 1868 to the Present*, pp.2-3 参照)。